

## 令和元年度 岩手県立大野高等学校第1回学校評議員会報告

- 1 日 時：令和元年5月17日（金）15：30～16：30
- 2 場 所：本校応接室
- 3 出席者：学校評議員3名、本校職員5名（学校長、副校長、事務長、生徒指導主事、総務担当）計8名
- 4 次 第：（1）開会 （2）校長挨拶 （3）出席者自己紹介 （4）学校概況説明  
（5）令和元年度学校経営計画について （6）質疑・意見交換 （7）閉会
- 5 内 容：【校長挨拶】（学校長）

日頃から地域の皆様のご支援に感謝申し上げます。本校は4月に29名の新入生を迎え、計89名の生徒と共に新年度をスタートした。今年度より1年生は1学級減で1クラスとなり、また、教職員数も2名減員した。そのような中でも、生徒は現在落ちついて学校生活を送っている。それもひとえに学校運営に於いては多くの保護者・学校関係者にご協力をいただいているお陰である。特にもPTA総会においては、昨年度を5%上回る出席者だった。運動部は翌週高総体を控えており、懸命に練習を重ねている。今後とも、授業、部活動、特別活動を通して生徒を伸ばしていきたい。

本日は、本校の取組や課題、将来のあるべき姿等について忌憚のないご意見を賜りたい。

### 【学校概況説明】（副校長）

（評議員についての説明）本校では学校評議員会が計2回開催される。今年度は令和2年2月20日（木）に第2回が開催される予定である。

平成31年3月1日に卒業式が挙行され、42名の卒業生が本校を巣立っていった。卒業生の進路について、進学者の割合が52%に上がった。職員の定数減により職員間の支え合いが大切になる。生徒数は、1年29名2学年32名、3学年は28名の合計89名になった。

部活動は部員不足に悩みながらも一生懸命活動している。在校生徒数が減少する影響もあり、やむを得ず来年度よりサッカー部と女子バスケットボール部が募集を停止する。これは、大野中学校サッカー部の募集停止に併せた。女子バスケットボールについては、近年団体でチームを組むことが困難なため募集停止とした。なお、廃部ではなく休部という扱いで、入部希望者が充分揃い次第、活動再開もあり得る。

会計について、軒並み縮小傾向がある。特にも教育振興会会計については、昨年度と比較して85%の予算規模となった。

里山整備事業について、里山のアカマツが樹齢90年の老齢に達し、本校のアピールポイントの一つでもあるまつたけの収穫が困難になってきている。自然環境の維持のためには大切な活動ではあるが、事業の運営を見直す必要も出てきた。

このような点を不利と捉えるのでは無く、これまでの教育実践と照らし合わせてよりよいものを作り上げたい。

### 【学校経営計画】（校長）

概ね前年度を踏襲した内容となっている。今年度は、職員だけの学校経営と考えるのでは無く、生徒もパートナーとして捉え、学校運営にあたりたい。

生徒が主体的に活動して、学習活動、部活動、生徒会活動を通して、進路実現に繋げることを目標の一つとしている。生徒の発達段階に応じた教育や、新大学入試制度に対応した受験指導に力を入れたい。

また、今年度は県の（インターネット回線を利用した）遠隔教育の指定校となっている。ネットワークを介した授業のあり方について試行錯誤が必要になる。

---

### 【質疑応答】（評議員・学校関係者）

A氏：高校はほとんど持ち上がりになっている。仲のよい生徒どうしだと思うが、そういったことのデメリットとメリットは何か。

学校回答：デメリットは限られた人間関係のため刺激が少なく、多くの人とふれあう機会も少ない。視野が広がりにくいことが懸念される。メリットは継続性がある。中学校と連携した協力が出来やすい。また、個に応じた指導がしやすい。

A氏：もし、デメリットがあるのであれば、改善してほしい。

学校回答：外部から刺激を得るために、積極的に遠方に出られればよいが、経済的な問題があるため、回数や場所には限りがある。進路面では、外部講師による講演会やオープンキャンパス、県で行なっているウインターセッションや合同学習会などに積極的に参加を促している。

A氏：野球部のように、外部の学校との部活動連携は刺激になったりするか。

学校回答：野球部の生徒は試合をする度によくなっていくとは聞く。また、遠隔授業は様々な課題があるが、他校との連携や生徒同士の意見交換などは生徒の刺激にはなると思う。

B氏：昔の中学生に比べ今の中学校の生徒は成長が遅れているように見える。中学校の中で、基本的な生活習慣は指導しているが、躰をしきれないで中学校で上がっている面もある。単一的な集団ではあるが、大野高校に入ると「大人になっている」ということを感じている。そういった面で大野高校に入るメリットがある。義務教育から高等学校の教育に切り替わった段階で生徒たちの意識も変わる。小中学校の教育力が問題というわけではなく、時代と共に生徒自身の成長スピードが遅くなっている。高校に入って大人にしてもらっているという感覚はある。また、大きな学校に入ったら心配な子も大野高校には安心して送り出せる。久しぶりに合うと、成長した姿が見られる。

C氏：いじめの認知件数は？

学校回答：昨年は2件。今は岩手県では積極的に認知してほしいとしている。昔ではいじめにあたらないこともいじめに認知することがある。

A氏：いじめの定義をみると教育活動がやりにくいとを感じる。大人からの指導の在り方や方法は昔と全然違うのだと感じる。先生から生徒への愛情の表現の仕方が限定的になってしまい指導が難しそうだ。

学校回答：いじめの見極めは確かに難しい。今後も生徒がより快適に学校生活を送れるよう、積極的に認知し、指導、解決していく。

A氏：進学率が上がっているが、この理由は何か。

学校回答：入試制度の変化や、生徒・保護者の意向などの移り変わり、家庭の事情等もあり、進学率が総合的には上がった。専門学校の希望者が増えたことも一因としてある。

B氏：家庭的な事情は大きい。経済的な面での親御さんへの接し方についても、計画的に考えていく必要がある。

学校提起：里山についてだが、マツタケの生育が厳しい。マツタケに代わる収穫物を目指し、シイタケを植菌したほだ木を現在は学校裏に置いている。何か里山整備事業で、より事業を成功に導くための意見をいただけないか。

A氏：マツタケを収穫する山を変えるという方法もあるのでは。

6 その他：次回の学校評議員会は令和2年2月20日に開催予定である。